

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州\_2014(v2.0)

<b>1 建物概要</b>			
建物名称	徳力団地診療所・とくりき春吉園	BEE	1
		BEEランク	B+
			★★★

<b>2 重点項目への取組み度</b>			
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.2 /5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	3.1 /5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	2.6 /5		がんばろう
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう
<sup>※</sup> 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4 点以上 ふつう 3 点以上 がんばろう 3 点未満	

<b>3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア</b>			
使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.2.1)	
<b>1 循環型社会への貢献</b>		スコア平均 3.2	
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮		
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.5	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3.2
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 2.9
再生骨材の路盤材等リサイクル材を採用し、資源の保護に配慮した。	特になし。		
<b>2 地球温暖化対策の推進</b>		スコア平均 3.2	
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮		
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.3	LR2/ 1.1 節水	スコア 3
特になし。		節水コマなどを取り付け節水に取り組むよう配慮した。	
<b>3 豊かな自然環境の確保</b>		スコア平均 2.7	
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮		
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 3	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 3
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 2
敷地内にある既存の生垣については、移植することとし、生物資源の復元に努めるようにした。	特になし。		
<b>4 高齢社会への対応</b>		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮	主な指標		
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	建物の外皮性能 (BPI評価)	
		非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級	0.73
バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たすよう配慮した。		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)	
		非住宅: BEI値、住宅: -	0.90
		外構緑化指数	44.00 %
		建物緑化指数	8.91 %

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

# CASBEE<sup>®</sup> - 建築(新築)

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	徳力団地診療所・とくろき春吉園	階数	地上4F
建設地	福岡県北九州市小倉南区徳力団地2番の一部	構造	S造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	70人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年6月 予定	評価の実施日	2017年10月6日
敷地面積	173,382 m <sup>2</sup>	作成者	白川 直行
建築面積	668 m <sup>2</sup>	確認日	2017年10月7日
延床面積	2,070 m <sup>2</sup>	確認者	近藤 陽吉



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

環境品質 (S) vs 環境負荷 (L)

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100% (138 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

② 建築物の取組み: 92% (126 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③ 上記+②以外の: 92%

④ 上記+: 92%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境 (3.0)

Q2 サービス性能 (3.1)

Q3 室外環境 (敷地内) (3.0)

LR1 エネルギー (2.9)

LR2 資源・マテリアル (3.3)

LR3 敷地外環境 (3.0)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境 (Q1のスコア= 3.0)

音環境	2.5
温熱環境	2.4
光・視環境	3.1
空気質環境	4.1

#### Q2 サービス性能 (Q2のスコア= 3.1)

機能性	3.5
耐用性	2.9
対応性	2.9

#### Q3 室外環境 (敷地内) (Q3のスコア= 3.0)

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性	3.0

**LR のスコア = 3.0**

#### LR1 エネルギー (LR1のスコア= 2.9)

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	2.5
効率的	2.0

#### LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア= 3.3)

水資源	3.0
非再生材料の	3.5
汚染物質	3.0

#### LR3 敷地外環境 (LR3のスコア= 3.0)

地球温暖化	3.3
地域環境	2.5
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項		その他
総合	入居者の室内環境・サービス性能に配慮し、快適性の向上に努めた。また、近隣環境への配慮から、敷地内緑化や屋上緑化にも積極的に取り組んだ。	特になし
Q1 室内環境	建築基準法規制対象外となる建築材料を多く利用し、より良い空気質環境となるように配慮した。	敷地内にある既存の生垣については、移植することとし、生物資源の復元に努めるようにした。
Q2 サービス性能	照明計画と内装計画を一体として計画し、魅力的で居心地の良い空間となるように配慮した。また、汚れやすい部屋には防汚性の高い建材を使用することにより、清潔な空間を保てるよう維持管理面においても配慮した。	
Q3 室外環境 (敷地内)		
LR1 エネルギー	特になし。	
LR2 資源・マテリアル	再生骨材の路盤材等リサイクル材を採用し、資源の保護に配慮した。	
LR3 敷地外環境		敷地内に車寄せのアプローチをとることにより、建物利用者による交通渋滞を招かないよう配慮した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**徳力団地診療所・とくりき春吉園**

欄に数値またはコメントを記入 ■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>							0.40		-	<b>3.0</b>
<b>1 音環境</b>						<b>2.6</b>	0.15	<b>2.5</b>	1.00	<b>2.5</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40	
1.2 遮音						<b>3.0</b>	0.40	<b>2.8</b>	0.40	
1 開口部遮音性能						3.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能						3.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-	2.0	0.20	
1.3 吸音						<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20	
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.4</b>	0.35	<b>2.3</b>	1.00	<b>2.4</b>
2.1 室温制御						<b>2.7</b>	0.50	<b>2.5</b>	0.50	
1 室温						3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能						2.0	0.25	2.0	0.43	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.9</b>	0.25	<b>3.8</b>	1.00	<b>3.1</b>
3.1 昼光利用						<b>4.2</b>	0.30	<b>4.2</b>	0.30	
1 昼光率		昼光率 共用部分:4.4% 宿泊部分:2.9%				5.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口							-		-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策						<b>2.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30	
1 昼光制御		バルコニー庇設置 居室はカーテン利用				2.0	1.00	<b>3.0</b>	1.00	
3.3 照度						<b>2.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15	
3.4 照明制御		居室は全て個室				<b>3.0</b>	0.25	<b>5.0</b>	0.25	
<b>4 空気質環境</b>						<b>4.1</b>	0.25	<b>4.1</b>	1.00	<b>4.1</b>
4.1 発生源対策						<b>5.0</b>	0.50	<b>5.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆を採用				5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気						<b>2.0</b>	0.30	<b>2.6</b>	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室の床面積の1/11					-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理						<b>5.0</b>	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視							-		-	
2 喫煙の制御		全館禁煙				5.0	1.00		-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>						<b>3.3</b>	0.40	<b>4.4</b>	1.00	<b>3.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性		居室内法面積:10.70㎡(最小値)					-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応							-		-	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性						<b>3.0</b>	0.30	<b>3.5</b>	0.40	
1 広さ感・景観		居室の天井高:2.5m					-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース							-		-	
3 内装計画						3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理						<b>4.0</b>	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		内装材は防汚性の高い建材で水拭き可 外部金属はアルミ製アルマイト処				4.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		清掃用具室・専用洗剤場の設置 ゴミ置場及び搬出ルート確保				4.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>2.9</b>	0.30		-	<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.2</b>	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水・給湯:塩ビラインク鋼管 汚水雑排水・通気:硬質塩化ビニル管				4.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20		-	
2.4 信頼性						<b>2.4</b>	0.20		-	
1 空調・換気設備						1.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20		-	
3 電気設備						3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>2.8</b>	1.00	<b>2.9</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>2.6</b>	0.50	
1	階高のゆとり		3.0	0.60	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	2.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	<b>3.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.0</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>2.9</b>
1	建物外皮の熱負荷抑制	[BPI][BPIm]= 0.73	5.0	0.20		-	5.0
2	自然エネルギー利用		3.0	0.10		-	3.0
3	設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.90	2.5	0.50		-	2.5
4	効率的運用		2.0	0.20		-	2.0
	集合住宅以外の評価		2.0	1.00		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		1.0	0.50		-	
	集合住宅の評価			-		-	
4.1	モニタリング			-		-	
4.2	運用管理体制			-		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
<b>1.1 節水</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.5</b>	0.60		-	<b>3.5</b>
2.1	材料使用量の削減	BCR295・SN400B他	3.0	0.10		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	鉄鋼スラグ混入路盤材(アスファルト舗装) パーティクルボード	4.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+軽量鉄骨+仕上材	5.0	0.20		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.0</b>	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		排出率:92%	<b>3.3</b>	0.33		-	<b>3.3</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.5</b>	0.33		-	<b>2.5</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25		-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>2.0</b>	0.50		-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.3</b>	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		-	-		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
3	交通負荷抑制	来客用、職員用駐車場の分離及び出入口の分離	4.0	0.33		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33		-	<b>3.1</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制			-		-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.7</b>	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	設備設計事務所による計画(設計) 屋外広告物照明は無し	4.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	